

第4章 総括

1 稲部遺跡群における弥生時代後期後半から古墳時代前期の集落

(1) はじめに

稲部遺跡第3次調査では、1～4区の各区において弥生時代後期後半から終末（庄内式期）の100棟近くにのぼる堅穴建物が密集して検出され、建物どうしが著しく重複している状況が確認された。調査区外周辺にもさらに多数の堅穴建物が存在することが予想され、現在までの調査によって把握できた以上の規模で居住域が広がる可能性がある。これらの堅穴建物の上からは、弥生時代終末（庄内式期）から古墳時代前期初頭（布留式期古段階）と推定される掘立柱建物が建てられるとともに、土坑や方形区画施設を構成する区画溝が掘り込まれている。また、稲部西遺跡第2次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の集落の西端部の状況の一端が明らかになった。

集落の変遷については、土器の整理検討とあわせて論じる必要があるが、ここでは、稲部遺跡と稲部西遺跡をあわせて稲部遺跡群と呼称し、この遺跡群において重層的に展開する集落の様相について若干の検討を行い、現状で理解できるおおまかな集落の変遷について述べてみたい。

(2) 弥生時代後期後半から終末の集落

堅穴建物群 堅穴建物からの土器の出土はきわめて乏しいが、遺構の切り合い関係と稲部西遺跡第2次SR02及び稲部遺跡第1次調査出土の弥生時代後期後半の土器群より、この時期から堅穴建物からなる集落の形成が開始されたものと推定できる。一辺の長さ4～6mの方形の堅穴建物を中心とする集落が形成され、なかには長さ8.8mと大型の堅穴建物である稲部遺跡第3次SH33が含まれる。多くは平面正方形で、長方形のものも少しみられる。平面正方形の堅穴建物は、基本的には4本柱を基本構造とするものとみられる。

稲部遺跡第3次調査区では、特に多数の堅穴建物が密集して建てられ、しかも頻繁に建て替えが繰り返されていることから、顕著な集住の様子がうかがわれる。また、平成27年度に実施した稲部遺跡第6次調査2区では、大溝SD05の南側一帯において柱痕跡をとどめる柱穴が多数存在しており、この地点の基盤面が集落のなかでは比較的高所にあたる範囲でもある。稲部遺跡群の大半は、現況水田となっており、中世から近世にかけての耕作溝が広範囲で密に検出されていることから、中世以降の耕作によって当該期の遺構が削平を受けている状況をふまえると、この稲部遺跡第6次2区においても、中世以降の削平を容易に推測することができる。つまり、多数の堅穴建物が存在した可能性はあるが、削平によって掘方が残らず、柱穴のみが検出されたものと考えられる。したがって、稲部遺跡第3次調査区から北



密集する堅穴建物群

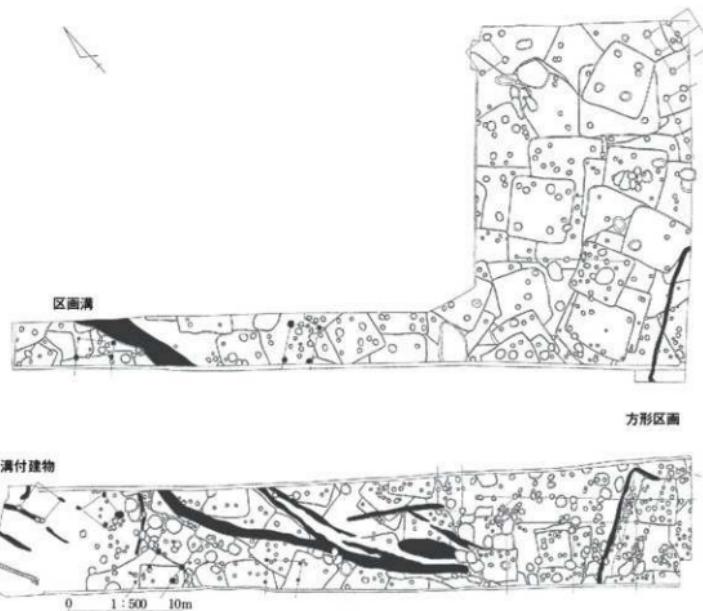


第55図 稲部・稻部西遺跡 弥生時代後期後半から終末主要遺構配置図

側では一旦堅穴建物の分布が途切れるのではなく、連続して展開していた可能性が高いだろう。

堅穴建物の方位には、いくつかの方向性があり、一定ではない。出土土器の編年的位置を含め、堅穴建物群が建て替えを繰り返しながら存続する時期幅が問題となろう。この点については、出土土器の整理検討と稲部遺跡第3次1区・2区および稲部遺跡第6次の堅穴建物の整理検討を待って検討する必要があり、庄内式期の時期幅とも関わる問題である。

多角形堅穴建物 平面方形の堅穴建物とは別に、平面六角形あるいは五角形の多角形堅穴建物として稲部遺跡第3次SH34・36があり、平面六角形の堅穴建物としては、稲部西遺跡第1次SH02・03がある。稲部西遺跡第1次SH01・05も全体形は不明であるが、多角形堅穴建物の可能性がある。多角形堅穴建物は、方形の堅穴建物よりも明らかに少ない稀少な建物であり、空間的には稲部遺跡第3次調査区の西端部から稲部西遺跡第1次調査区にかけての範囲でまとまって検出されており、多角形堅穴建物は集落の特定の場所に建てられているものとみられる。この点は、多角形堅穴建物の性格を考える上でも注意すべきであろう。



第56図 稲部・稻部西遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭主要遺構配置図

工房的な建物 大半の竪穴建物は居住用とみられるが、一部には工房的な建物も含まれることは注目できる。稲部西遺跡第1次SH04は長さ3m程度と小規模な方形の竪穴建物で、床面に硬化面が認められ、この硬化面に対応するように炭が広範囲に広がり、床面において鉄分が顕著に付着して敲打痕をとどめる台石が据えられていた。また、稲部西遺跡第1次SH02は、平面六角形の竪穴建物であるが、屋内に炭や炭化木を多く含む小穴を複数伴うもので、建物の埋土からは堅く焼きしまって重量感のある鉄分を含む粘土塊1点が出土し、部分的に特に高温な熱を受けているように観察できる。稲部西遺跡第1次SH01からは板状の鉄片の可能性のある遺物1点が出土している。

これらの建物は、炭を多く含む小穴を伴い、床面が硬化するほか、台石や堅く焼き締まった粘土塊が出土するなど、通常の居住用の建物とは様子の異なるものである。これらは居住用の建物というよりは、むしろ何らかの生産活動に伴う工房的な建物である可能性が高いと考えられる。一案として鍛冶作業に関わる工房などの建物の可能性が考えられるが、関連遺物をさらに検討し、建物の性格について考えていく必要がある。今後の周辺の調査において

は、以上の問題意識を念頭に置いた調査が求められよう。

（3）弥生時代終末から古墳時代前期初頭の集落

この時期になると、堅穴建物を切り込んだ土坑がみられ、同様に廃絶した堅穴建物の上から掘立柱建物や周溝付建物が建てられるようになる。稻部遺跡第2次の青銅器铸造などに関わるとみられる工房的な堅穴建物などを除き、堅穴建物の多くは機能していないと推測され、かわって周溝付建物と掘立柱建物が主体となる。集落の土地利用の上で大きな変化が認められるのである。

周溝付建物 建物のまわりに溝をめぐらす周溝付建物が、稻部遺跡第3次調査区西端部から稻部西遺跡第1次調査区にかけての範囲で検出されている。稻部遺跡第3次調査区西端部から稻部西遺跡第1次調査区にかけての範囲では、詳細にみるとさらにA群とB群という二つの群に分かれる。A群は、稻部遺跡3次調査区の建物群を包括しているとみられる。A群では、周溝のみが検出されたものを除いて建物4棟が検出され、B群では少なくとも1棟が検出されている。

前後関係は不明であるが、それぞれの群では複数の建物が重複し、建物の規模、周溝で区画された範囲の規模、建物の方位に共通性があり、継続的に建てられたものと推定できる。なお、建物の構造としては、4本柱が基本構造である点は堅穴建物と同様であるが、本来掘方をもつ堅穴建物であったのかははっきりしない。検出時においては、いずれも掘方は認められず、柱穴のみの検出にとどまっている。もしも周溝付建物が堅穴建物であったならば、他の掘方の残る堅穴建物と一定程度同じ条件で削平を受けていると考えると、他の掘方の残る堅穴建物に比べて周溝付建物の掘方は浅かった可能性も考慮しておく必要があろう。

周溝付建物については、その出自と性格が問題となるが、集落のなかである特定のエリアに集中し、前段階の多角形堅穴建物の分布範囲とよく対応する点は注目してよいだろう。低湿地などの立地環境に適応しているのか、あるいは居住者の階層や性格を示すのか、双方の視点からの遺跡ごとの検討が必要である。稻部遺跡群の場合には、周溝付建物が方形区画施設の西側に明らかに集まっていることから、立地環境だけでなく、居住者の集団の性格に関わっていることも考えられる。また、他の掘立柱建物との位置関係も問題となろう。

掘立柱建物 掘立柱建物も広範囲で検出されている。稻部遺跡第2次調査の報告（彦根市教育委員会2015a）では、建物の方位と位置関係や他の遺構との関係から、I期からIII期にかけての3時期を想定していた。すなわち、I期：SB01・SB07・SA03→II期SB02・SB03・SB04・SA03→III期：SB05・SB06という変遷觀である。建物の方位と形態からみて、I期とII期では独立棟持柱建物などの建物の形態・規模や位置関係において近い様相を示すが、III期になると、I期・II期の様相との違いがやや際立つ。III期になると、明らかに真北を志向する建物が多くなるようである。

稻部遺跡第3次・第6次、稻部西遺跡第1次においてもこれらの様相に対応する建物遺構が検出されてきている。稻部遺跡第3次2区・3区・4区では、II期とみられる掘立柱建物

が散在するが、方形区画施設の内外に掘立柱建物が集中する傾向がある。また、区画溝の西側には大型の柱穴が複数あり、調査区外にかけて大型の建物が展開することも予想され、今後、周辺の調査で柱穴が検出されれば、それらの柱穴とあわせて建物の存在について再検討する必要があろう。古墳時代前期初頭以降の遺構の有無についても注意すべきである。

また、最も注目できるのは、未報告ではあるが、平成27年度に実施した稻部遺跡第6次2区で検出されたI期からII期にかけての大型建物群で、これらに直交する方向で弧状に湾曲してほぼ平行する4条の区画溝も検出された。この他に、稻部遺跡第3次1区北東端から稻部遺跡第6次2区南東部にかけて総柱の掘立柱建物などがあり、稻部西遺跡第1次では、調査区西寄りにIII期とみられるSB02が位置する。

方形区画施設 稲部遺跡第3次調査区では、溝によって方形の空間を形成する二つの方形区画施設が南北方向に並んで検出されている。方形区画施設の西端部のみが確認できるが、北側の方形区画施設は溝の内側で一辺の長さ約14.0m、南側の方形区画施設もほぼ同じ長さと推定され、形と規模の近いものが並存しているように見える。現在のところ、この二つの方形区画施設に積極的に時期差を認めることは難しい。北側の方形区画施設の内側の状況は不明であるが、南側の方形区画施設の内側には、全体形に不明な点を残すものの、掘立柱建物が位置する。方形区画施設の北西隅では、溝が途切れる点も注目される。これに加えて、区画溝の内側には溝と平行する柱穴列があり、櫛や扉のような構造物の存在が想定できる。方形区画施設の状況について不明な点が多いことから、現段階ではその性格に関する論及は控えるが、近畿において類例の少ない遺構であり、集落の中心的な重要施設である可能性を含め、周辺の堅穴建物との時期的な関係や集落構造における溝や他の建物との位置関係など、検討課題は多い。

(4) まとめ

これまでの調査成果としては、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭にかけて、集住度の高さをうかがわせる密集した堅穴建物群、青銅器鋳造や鍛冶に関わる可能性のある工房、周溝付建物、大型建物や独立棟持柱建物を含む掘立柱建物が、方形区画施設や溝とともに同一集落であわせて検出されたことが挙げられる。もちろん独立棟持柱建物などの個々の建物が検出されたことが重要なのは当然である。しかし、それにとどまらず、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭にかけて堅穴建物を中心とする居住域の展開、大型建物や独立棟持柱建物、方形区画施設という集落の重要な施設と金属器生産に関わる工房の出現の様子が重層的にみられ、集落遺跡内の機能分化・階層分化、社会構造の変化のあり方を知る上できわめて貴重な情報を内包する集落遺跡であることが明らかになってきた点はさらに重要であると考えられる。

湖東北部の愛知川流域では、現愛知川左岸の石田遺跡や大規模集落である斗西遺跡・中沢遺跡が知られていたが、稻部遺跡群（稻部遺跡・稻部西遺跡）は、旧愛知川である文禄川・来迎川流域においてこれらの遺跡と時期が併行する大規模集落とみなして大過ないであろ

う。

今後は詳細な集落の存続時期と集落の変遷を検討するなかで、庄内式期から布留式期にかけての古墳時代開始期の社会変化の様相について考えるとともに、近江をはじめとした近畿の集落遺跡と比較検討する作業が求められよう。

参考文献

- 戸塚洋輔 2015 「彦根市福部遺跡・福部西遺跡の調査—湖東北部における古墳時代初頭前後の集落—」『近畿弥生の会 第18回集会発表資料』 近畿弥生の会
- 彦根市教育委員会 1982 「福部遺跡発掘調査概要報告書」 彦根市埋蔵文化財調査報告第3集
- 彦根市教育委員会 2015a 「福部遺跡第2次発掘調査報告書」 彦根市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 彦根市教育委員会 2015b 「福部西遺跡第1次発掘調査報告書」 彦根市埋蔵文化財調査報告書第62集

第3表 出土遺物観察表

| 番号 | 遺構・層位 | 種別 | 級別 | 残存 率 (%) | 反転 回数 | 幅 (cm) | 器高 (cm) | 長さ (cm) | 厚さ (cm) | 口径 (cm) | 色調 | その他 |
|------------------|------------|------|--------|----------------|----------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------------|---------------------|
| 稻部遺跡第3次発掘(3区・4区) | | | | | | | | | | | | |
| 1 | SH50(SH62) | 木製品 | 柱根 | | | | 133.2 | 11.8 | | | | |
| 2 | SK69 | 織文土器 | 深鉢 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：灰白色 内面：褐灰黄色 | |
| 3 | SK69 | 織文土器 | 深鉢 | 5 | ○ | | 25.2 | | | | 外表面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色 | |
| 4 | SK69 | 織文土器 | 深鉢 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：褐灰黄色 内面：にぶい黄褐色 | |
| 5 | SH40検出面 | 織文土器 | 深鉢 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色 | |
| 6 | 4区検出面 | 織文土器 | 深鉢 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：灰白色 内面：褐灰黄色 | |
| 7 | 1区・3区重複層 | 埴輪器 | 高杯 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：灰白色 内面：オリーブ黒色 | |
| | 灰褐色土 | | | | | | | | | | | |
| 8 | 1区・2区重複層 | 灰釉陶器 | 碗 | 5 | ○ | | 15.2 | | | | 内外面：灰白色 | |
| | 灰褐色土 | | | | | | | | | | | |
| 9 | 1区・3区重複層 | 灰釉陶器 | 碗 | 5 | ○ | | | | | | 内外面：灰白色 | |
| | 灰褐色土 | | | | | | | | | | | |
| 10 | 4区鶴嘴 | 陶器 | 鉢 | 5 | ○ | | | | | | 内外面：橙色 | |
| 稻部遺跡第2次発掘 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | SK102 | 青銅製品 | 金具 | 100 | | 1.75 | 4 | 0.1 | | | 濃緑色 | |
| 2 | SH82検出面 | 弥生土器 | 壺 | 30 | | | 134 | | | | 外表面：浅黄褐色 内面：褐灰色 | 重量5.5g |
| 3 | SH82 | 弥生土器 | 壺あるいは甕 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：灰白色 内面：灰褐色 | |
| 4 | SH82 | 土師器 | 壺 | 5 | ○ | | 17 | | | | 外表面：橙色 | |
| 5 | SH82 | 土師器 | 壺 | 5 | ○ | | 145 | | | | 外表面：浅黄褐色 内面：灰白色 | 底径11.4cm |
| 6 | SH82検出面 | 土師器 | 甕 | 5 | ○ | | 178 | | | | 内表面：にぶい橙色 | |
| 7 | SH82 | 土師器 | 甕 | 5 | ○ | | 172 | | | | 外表面：橙色 内面：浅黄褐色 | |
| 8 | SH82中層 | 土師器 | 甕 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：橙色 内面：黄褐色 | |
| 9 | SH82下層 | 土師器 | 高杯 | 15 | ○ | | 17 | | | | 内表面：にぶい橙色 | |
| 10 | SH82A層 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | ○ | 20.4 | | | | | 内外面：灰褐色 | |
| 11 | SH82A層 | 弥生土器 | 鉢 | 5 | ○ | | | | | | 内外面：灰褐色 | |
| 12 | SH82A層 | 弥生土器 | 壺 | 5 | ○ | | | | | | 内外面：にぶい黄褐色 | |
| 13 | SH82A層 | 弥生土器 | 高杯 | 40 | ○ | | | | | | 内外面：灰褐色 | 脚径5.2cm 底径15.5cm |
| 14 | SK102 | 土師器 | 甕 | 5 | ○ | | | | | | 外表面：浅黃色 内面：橙色 | |
| 15 | 検出面 | 施釉陶器 | 瓶 | 5 | ○ | | 153 | | | | 内外面：浅黃色 | 瓶口尖端 |
| 16 | 検出面 | 灰釉陶器 | 瓶 | 5 | ○ | | 7 | | | | 内外面：灰白色 | |

色調は「標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議局監修)に準拠

図 版

図版1



稻部遺跡第3次調査区遠景（西から）

図版 2



稻部遺跡第3次調査区遠景（東から）

図版3



1 稲部遺跡第3次2区・3区全景（東から）



2 稲部遺跡第3次2区・3区全景（西から）

図版 4

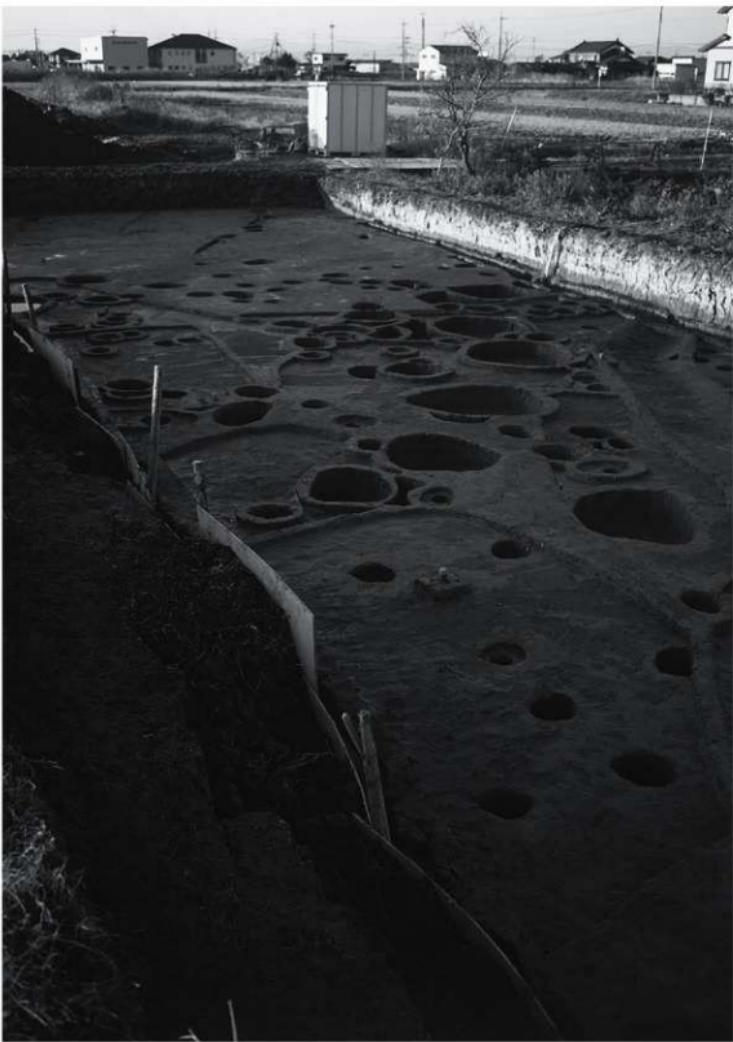


1 稲部遺跡第3次4区全景（東から）



2 稲部遺跡第3次4区全景（西から）

図版5



稻部遺跡　弥生時代後期後半から終末SH29他堅穴建物群（東から）

図版 6



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH29堅穴建物（北東から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH31・32・33堅穴建物（北東から）

図版7



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH23・24・29竪穴建物（北から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH23・24・25竪穴建物（北から）

図版 8



桶部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH22ほか竪穴建物群（北から）

図版9



稻部遺跡　弥生時代後期後半から終末SH19ほか竪穴建物群（南東から）

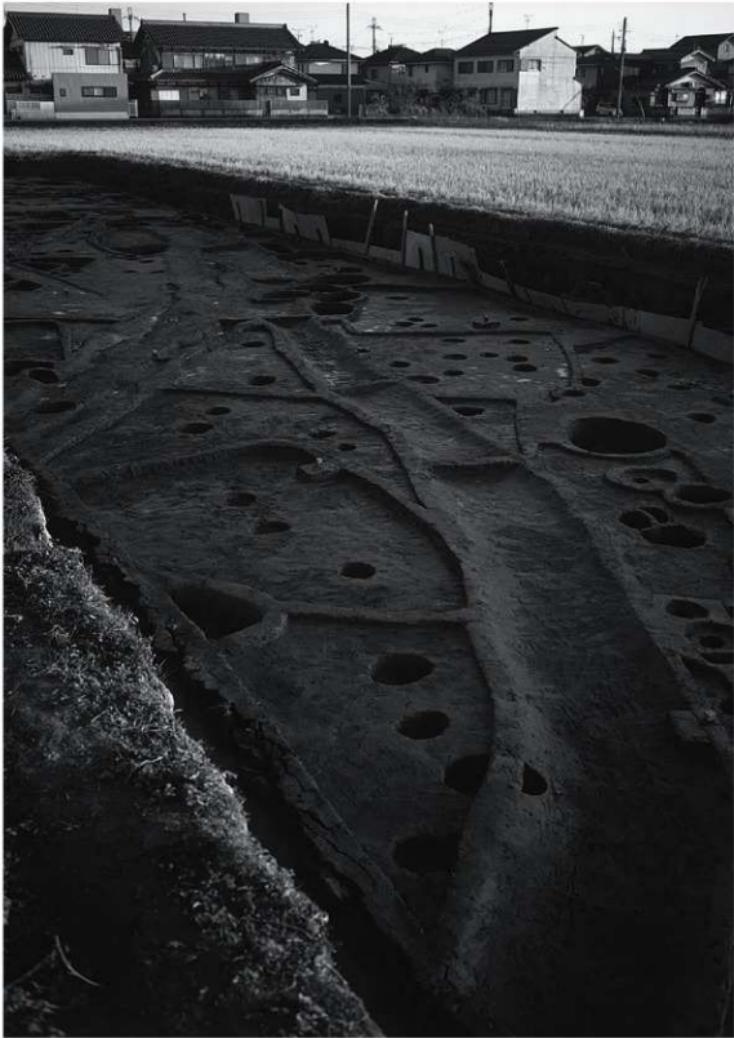


1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH21・22竪穴建物（北から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH28・31竪穴建物（北から）

図版11



稻部遺跡　弥生時代後期後半から終末SH24ほか竪穴建物群（北から）

図版12



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH25・26・27堅穴建物（南から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH17・18堅穴建物（南西から）

図版13



稻部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH17ほか竪穴建物群（西から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH12・16竪穴建物（北西から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH12・16竪穴建物（西から）

図版15



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH13・14・15堅穴建物（北西から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH13・14・15堅穴建物（南西から）



1 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SH44・46周溝付建物（北東から）



2 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SP52・53土坑（北東から）

図版17



稻部遺跡　弥生時代終末から古墳時代前期初頭SD02溝（西から）



1 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SD02・03溝（西から）



2 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SD02・04溝（北から）

図版19



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH35・36・37堅穴建物（西から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH34堅穴建物（南から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH37・38・40堅穴建物（北から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH41堅穴建物（南から）

図版21



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH42堅穴建物（南から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH43堅穴建物（南から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH47竪穴建物（南から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH48・49竪穴建物（北から）

図版23



稻部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH50ほか竪穴建物群（西から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH50竪穴建物（北から）



2 稲部遺跡 SH50 (SP62) 柱根上部出土
状態（東から）



3 稲部遺跡 SH50 (SP62) 柱根下部出土
状態（南から）

図版25



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH50堅穴建物（南から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH50・52堅穴建物（北から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH51・52竪穴建物（南東から）



2 稲部遺跡SH51（SP61）自然木出土状態
(西から)



3 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末
4 区東部竪穴建物群（東から）

図版27



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH52堅穴建物（東から）



2 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH54堅穴建物（東から）



1 稲部遺跡 弥生時代後期後半から終末SH54・66竪穴建物（北から）



2 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SB09掘立柱建物（南西から）

図版29



1 稲部遺跡 繩文時代晚期SK09土坑（南から）



2 稲部遺跡 繩文時代晚期SK09土坑（北から）



1 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SK12土坑（南東から）



2 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SK14土坑（南から）

図版31



1 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SD05溝（北から）



2 稲部遺跡 弥生時代終末から古墳時代前期初頭SD05溝（西から）



1 稲部西遺跡第2次調査区全景（南から）



2 稲部西遺跡第2次調査区全景（西から）

図版33



1 稲部西遺跡第2次調査区南壁土層（北から）



2 稲部西遺跡第2次調査区西壁土層（南東から）



1 稲部西遺跡 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭SR02自然流路（北から）



2 稲部西遺跡 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭SR02自然流路（西から）

図版35



1 稲部西遺跡 SK101土坑（南から）



2 稲部西遺跡 SK102土坑（南東から）



3 稲部西遺跡 SK104土坑（南から）



4 稲部西遺跡 SK105土坑（南から）

図版36



1 稲部遺跡 SH50 (SP62) 柱根 (1)



2 稲部遺跡SH50 (SP62) 柱根 (2)



3 稲部遺跡SH50 (SP62) 柱根 (3)

図版37



1 稲部遺跡 SK09土坑出土縄文時代晩期土器



2 稲部遺跡 出土須恵器・陶器

図版38



1 稲部西遺跡 SR02出土弥生時代中期前
葉土器壺



2 稲部西遺跡 SR02出土弥生時代後期後
半土器高環



3 稲部西遺跡 SK102出土青銅製金具表面



4 稲部西遺跡 SK102出土青銅製金具裏面

報 告 書 抄 錄

彦根市埋蔵文化財調査報告第66集

稻部遺跡第3次・稻部西遺跡第2次 発掘調査報告書

—市道稻部本庄線道路改良工事に伴う発掘調査—

平成28年（2016年）3月31日発行

編集・発行：彦根市教育委員会文化財課

彦根市尾末町1番38号

Tel. 0749-26-5833

印刷・製本：西濃印刷株式会社

岐阜市七軒町15番地